



会員の声

アンケート結果にみる会員の意見

川村 登*

本誌の記事内容などについての批判や要望と共に、特集テーマや原稿の推薦をいただくため、毎年アンケート調査を行っています。その貴重な御意見は勿論会誌の編集に反映すべく努力していますが、広く会員の皆様にもこれらの御意見を知っていただくため、会員の声欄に、まとめて掲載してはという意見が編集実行委員会から出てきました。多数の方の意見を集約することも、一人の会員の声と共に有意義であり、編集実行委員長がとりまとめることになりました。

今回は昭和58年11月17日に、本研究会役員、委員115名にアンケート調査を行い、19名の方から寄せられた回答をまとめたものである。回答率が低いことが気になるところであるが、今後の御協力を切にお願い致しますと共に、ここに回答を寄せられた方々に厚く御礼申し上げます。多数の方の意見でありますので、相互に矛盾することもあります。できるだけ客観的に、とりまとめました。

まず、会誌の記事内容についての印象については、従来の編集方針が良いとされる意見が多く、まずまずの評価をいただいていると思われませんが、内容が多過ぎる、更に平易な解説も含まれると尚良い、内容が盛沢山で少し重すぎる感があり、内容も細分化しすぎている等の批判的な意見があった。また紙数不足で中途半端な論文があり、もう少しページ数の弾力的な配分を考えよとの意見があった。

研究会の名称が「エネルギー・資源」であるにも拘わらず、内容がエネルギーに片寄っている。資源部門の比重をもっと高め、資源戦略、国際資源問題と幅広くとりあげることを望む声があった。

論説、展望、解説記事については、エネルギー見通

しや新省エネ対策等をもっと充実させ、エネルギー経済論、エネルギーシステム分析等、ソフト分野の記事を増やすようにとの要望があった。反面、これらの記事にはオリジナリティのある論文がほとんど見られないとの批判があった。また、論説などよりも、直ぐ役に立つような先端のエネルギー・資源関係の技術を掲載してほしいとの要望もあった。

特集およびシリーズ特集は、比較的好評のようである。これらは今後も続行する編集方針をとりたいと思います。

報文については、全く賛否分かれた意見が出ていて、その掲載は夫々の専門誌にまかせて、本誌では廃止した方がよいと云うのと、積極的に取入れ充実せよと云うように対立している。

技術行政情報については、他誌に見られぬ特徴となっているとの評価を受けている。

その他の意見としては、隔月発行から月刊に切換えるとか、エネルギー・資源の技術を逐次掲載して、適当な時期にまとめて出版してはとか、エネルギー・資源に関わる他の学協会等の活動状況も紹介してほしいとかの要望があった。また、テーマが一巡し、段々と興味のうすい細い内容になりつつあるとの批判など、卒直に受止めるべき貴重な意見がよせられている。

これらの批判・意見等については、できるものから編集に反映して参りますが、猶慎重に検討すべものもあります。ここにアンケート結果を、あえて会員の声として掲載しましたが、これらに対する会員各位の意見なり、自由な考え方を会員の声欄に投稿下さることを期待しています。

* 京都大学農学部農業工学科 教授

〒606 京都市左京区北白川追分町